Miyazaki Women's Junior College

宮崎女子短期大学紀要　第21号　27-34頁

女子短期大学生の家族画テストについて

栗　山　和　広

Family Drawing Test in Women's College Student

Kazuhiro KURIYAMA

は　じ　め　に

カウンセリングにおいて，面接者が被験者に「あなたと家族との関係はどうですか。両親をどう思っていますか」と尋ね，一次集団である家族と被験者との関係についての情報を知ることは被験者の理解には極めて重要なことである。しかし，カウンセリングの短い時間に，家族の問題に関する有効な情報を収集することはかなり困難である。そこで，できるだけ多くの客観的な情報を得るために，心理テストを行うことが必要になってくる。そうした家族関係を知るテストとして，従来はＴＡＴやロールシャッハテストが用いられてきた。こうしたテストでも，ある程度は家族の問題に関する情報を得ることはできる。しかし，「あなたの家族画を描きなさい」という指示でなされる家族画テストは，従来の心理テストと異なり，非言語的的コミュニケーションであるグラフィックコミュニケーションの形で情報を得ることができる。これは，被験者が家族内における自分の孤立やまた家族内のある者に対する敵意を言語的に表現するよりは，グラフィックコミュニケーションで表現する方がより表現しやすいことから考えると，家族関係の問題を知るのに他の心理検査よりも有効な方法であると思われる。こうした点から，学生相談や心理療法において家族画テストは用いられるようになってきている（高橋　1987）。

家族画テストについては，石川（1982）が歴史や実施方法について，また，高橋（1984）はその理論的な根拠について詳しく説明している。入江（1994）は不登校の児童や非行少年の家族画における表現病理について検討している。また，高橋（1985）は大学生と非行少年に家族画を試行し，家族画を特徴によりいくつかに分類し，また両者を比較して，家族画に表れる家族関係の問題を考察している。しかし，まだ家族画の分類化や信頼生や妥当性については充分な基準ができているとは言いがたく，年齢，性格，所属集団，行動様式などの異なる集団を用いて，家族画の分類化や内容の基準を明らかにしていくことが必要と考えられる。

さて，４年生大学生と女子短期大学生のおかれている環境は，年齢，学生生活，人間関係において違いが見られる。こうした違いは，家族画テストの内容においても大学生と女子短期大学生に違いを生じさせると考えられよう。そこで本研究では，女子短期大学生に家族画テストを実施するこ

NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

とにより，家族画の分類化，問題表現や様式内容の基準化の資料として検討することを目的とする。

方　　法

被験者　女子短期大学生１年生150名。

手続き　講義終了後に講義室で行った。家族画テストには，個人法と集団法があるが，本研究では集団法を用いた。女子短期大学生に画用紙を与え，次のような教示を行った。集団法の教示は高橋（1985）の教示方法を参考にした。「これから絵を描いてもらいます。これは絵の上手下手には関係がありませんから気楽な気持ちで描いて下さい。皆さんがもっている鉛筆を用いて絵を描いて下さい。絵のテーマは私の家族です。お互いの絵を見ないようにしてください。また，何か質問があるときは手を挙げて個人的に尋ねてください。絵を描く時間は50分ぐらいですから，その時間に描き終えて下さい。」また，絵を描く際，隣同士の絵が見えないように被験者の座る位置の間隔を離すように指示した。検査者の教示に対し被験者が，「家族全員ですか」「自分もいれるのですか」「顔だけですか」という質問をした際には「思ったように描いて下さい」と答えた。

家族画を描き終えた後に次のような教示を行った「画用紙の裏に簡単な略図を描いて，その人が誰であるか，また描いた順序に番号を記入して下さい。また，描いたそれぞれの家族について簡単な感想を自由に描いて下さい」。これは，個人法のようにテスト終了後に個人ごとに質問ができなかったために行った。

結　果　と　考　察

家族画の描画形式の類型については，まだ充分に確立されていないのが現状である。それは，描画要因が余りに多く因子分析などの統計的手法が困難なことによると考えられる。本研究では，高橋（1985）の描画様式の類型化を参考にして，家族が静止している静止的家族画と家族が動作を行っている動的家族画の２つに分類した。

（１）静止的家族画

静止的家族画には以下の８つの類型化が見いだされた。

①記念写真型

これは，家族写真のように，家族のメンバーが静止してそろって並んでいる姿を描いたものである。記念写真型には，人物の全身を描く場合（図１），人物の上半身を描く場合（図２），人物の顔だけを描く場合（図３）の３つが見いだされた。人物の全身を描く者は33.3％（50名），人物の上半身を描く者は12.6％（19名），人物の顔を描く者は17.3％（26名）であり，記念写真型で描いた者を合わせると63.3％（95名）であった。この型は，高橋（1985）も述べているように，家族画で描かれる最も一般的な形式であり，ロールシャッハテストでの平凡反応にあたると考えられる。高橋（1985）は大学生においてこの型を示した者は39.5％いることを見いだしている。

②枠型

家族のメンバーを枠で囲んで描いたものである（図４）。枠型の家族画を描いた者は8.0％（12名）見られた。枠型を描いた者の感想には，「お父さんもお兄さんも，仕事で海外にいっておりあまり

NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

家にいない」「最近は4人そろってしゃべったり，ご飯を食べたり，遊びに行ったりする機会がほとんどない」「私の家族はまとまってそうでまとまっていない。行動はいつもバラバラである」といったものが多く，家族のまとまりのなさを述べていた。枠型については，高橋（1987）はなんら述べていないが，これは女子短期大学生のみ見られるのか今後の検討が必要である。

③自分省略型

家族画では自分を含めて描くようにと言われていないにも関わらず，自分を含めた家族画を描くのが一般的である。しかし，中には家族画に自分だけを描かない者が見られた（図5）。自分省略型の家族画を描いた者は10.0%（15名）見られた。自分省略型を描いた者の感想には，「私の家族は明るくて楽しい家族です」といったものが多かった。しかし，大原（1988）の家族画の読みとして，自分自身を省略を省略する場合，必ずしも省略した本人が家族から排除されていることを意味しないが，何らかの理由で家庭にうまく適応していないために，自分自身の像を省略する傾向があると述べている。また，高橋（1987）は，自分省略型は大学生で11.5%，非行少年で33.9%と非行少年でかなり多いことから，自分が入っていない家族画を描く者は，自分を家族と一体化していないように思われると述べている。これらのことから，自分を省略している家族画を描く者には，何らかの心理機制が働いていることが考えられる。

④家系図型

家族を家系図のように描いたものである（図6）。家系図型を描いた者は3.3%（5名）見られた。家系図型を描いた者の感想には，「ごく普通の家族です」というものでなんらの問題も見いだされなかった。しかし，大原（1988）は家系図のパターンを描く者は循環気質のそううつ気質の者が多いと述べている。この家族画の意味する所については，今後さらに検討すべきであると思われる。

⑤未来型

家族を描くようにと言われた場合，一般的には多くの者が現在の家族を描くが，現在の家族ではなく未来の家族を描く者が見られた（図7）。未来型を描いた者は2.0%（3名）であった。未来型を描いた者の感想として，「これは私の将来を描いたものです。いつも家族4人楽しく暮らしています」「平凡な家族です。私がつくっていく家族は平凡に幸せに暮らせたらそれでいいと思います」といったものであった。未来の家族を描く者は，現在の家族に何らかの問題をもつ可能性が考えられる。そのために，空想した家族を描くという高度な防衛を用いたと思われる。高橋（1985）は，大学生で未来型が0.4%（1名）いることを見いだしている。

⑥顔面空白型

家族成員の顔が空白のままの家族画である（図8）。顔面空白型を描いた者は2.0%（3名）であった。顔面空白型を描いた者の感想として，「うちの家族はいろいろあります」「うちの父は変わり者です。母は恐いです。兄はあまり好きでありません」といったものが見られた。高橋（1987）によると，大学生で9.2%，非行少年で12.3%が空白の顔を描いている。これについて，高橋（1987）は自我同一生が確立されていなかったり，性的同一生の混乱を示すものであると述べている。また，入江（1994）は形式にこだわり強迫的傾向の強い者であると述べている。感想からも見られるように，なんらかの意味で家族内の対人関係に問題をもっていると思われる。

⑦幼児退行型

被験者本人が幼児のころの家族を描いたものである（図9）。この型を描いた者は，0.6%（1名）

NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

であった。現在の家族を描かずに，幼児期の家族を描いた理由として，現在の家族関係に問題があるために幼児期の楽しかったころの家族を描いたことが考えられる。幼児退行型を描いた被験者の感想には，「父はどちらかというと厳しくあまり話す機会がありません。母は普通の人ですが相談することはないです。姉はしっかりもので気がつよくてにがてです。この図は今とはかなり違うような気がします」とあった。この感想からも，明らかに現在の家族関係に問題をもっていることが示されている。また，この図では父親の顔が横向きで描かれているが，これは恨みや拒否感情を抱いていることが考えられる。

⑧漫画型

漫画にでてくるような形態で家族画を描いたものである（図10）。この型を描いた者は1.2%（2名）であった。いままでの家族画では，スタイルは異っても，人物が描かれていた。しかし，この型は人物を現実とは異なった形態で描いている。これは，現実の家族関係に問題があることを示すようである。漫画型を描いた被験者の感想は，「私の家族は母がしきっています。母はなんでもこなすのでみんなが頼ってしまうのです。父は無口で母の活躍がめだってしまいます」とあった。家族画は，家族への感情の欲求を間接的に表すものであり，この感想からも被験者の何等かの欲求が示されているのかもしれない。

（2）動的家族画

絵を描いた学生全員に占める動的家族画を描いた学生の人数の割合を求めたところ，9.3%（14名）の女子短期大学生が動的家族画を描いた。教示では，家族の動作について描くようには言われなかったにもかかわらず，家族の動作が示されていた。動的家族画としては以下の3種類が見いだされた。①家族の団らんが描かれている団らん型（図11）が2.6%（4名），②食事の様子が描かれている円卓型（図12）は2.6%（4名），③それぞれの家族の成員の違った様子が描かれている分散分離型（図13）が4.0%（6名）見られた。団らん型や円卓型の短大生の感想には，「家中みんな仲良しです。すごく仲良しで大好きです」といった家族の明るい雰囲気が述べられているものが多い。しかし，分散分離型には「父と母の意見がかみ合わず，家族の歯車乱れ中」「弟は反抗期」「母と私は中が悪い」といった家族の疎通の無さやまとまりの悪さが描かれている。これらのことから，同じ動的家族画でも描かれている内容によって，家族関係に違いがあると考えられる。

高橋（1987）は，大学生で動的家族画を描く者は50.6%，非行少年では58.2%とかなり高い割合で出現すると報告している。それに対して，本研究では9.8%とかなり低い割合である。

（3）その他

大原（1988）の家族画の読みに基づいて，描く順序と顔の向きについて検討した。大原（1988）によれば，家族成員の最も重要な人物を最初に描くという。本研究では，最初に描く人物の比率は，父親（70.1%），母親（14.6%），本人（5.3%），兄弟（10.0%）であった。また，高橋（1985）によれば，大学生の最初に描く人物の比率は，父親（52.0%），母親（10.1%），本人（13.7%），兄弟（5.3%）であった。女子短期大学生，大学生とも，最初に描く人物は，父親であり，家族の中に占める父親の地位の重要性を示すものである。しかし，女子短期大学生の方が大学生よりも父親を最初に描く割合は高く，女子短期大学生の方が父親をより重要と考えていることがうかがえる。

人物の顔の向きは，ほとんどの家族画で正面を向いていたが，中には横向きや後ろ向きのものも見られた。横向きの顔が見られた家族画は4%（6名）であり，動的家族画と退行型・漫画型にの

NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

み見られた。これは，テレビを見ている状態や，食事をしているときの誰かが向こうを向いている状態によるともいえるが，そのような状態でも多くの場合は向こう向きに描かないことから，顔面空白型と同じ様な意味をもつことが考えられる。横向きの人物になんらかの問題を有し，描画することを回避していると考えられる。

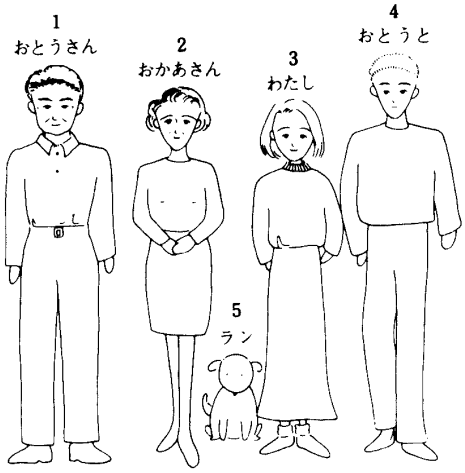

図1

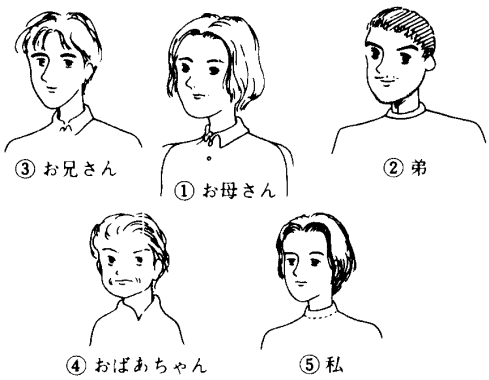

図2

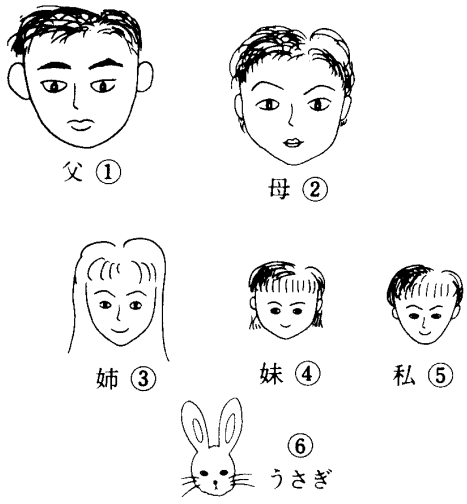

図3

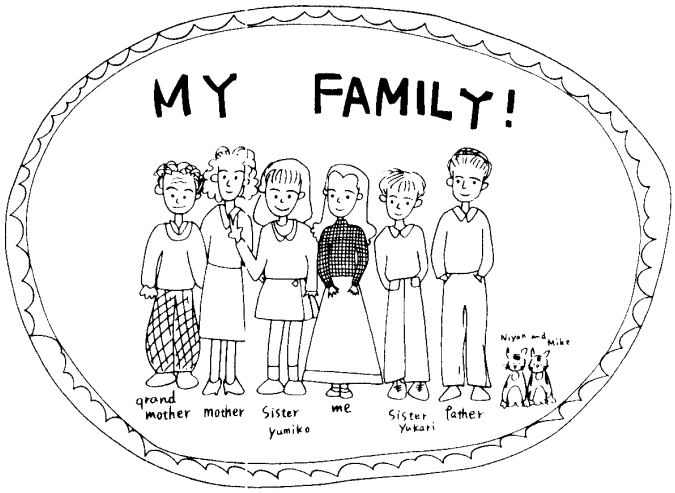

図4

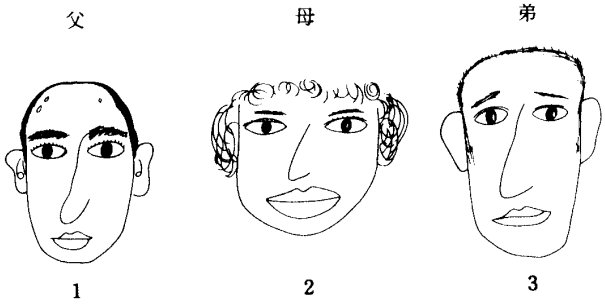

図5

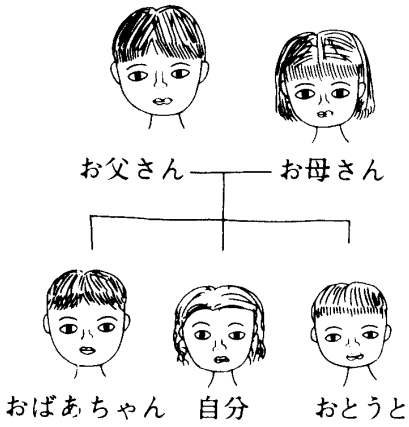

図6

NII-Electronic Library Service

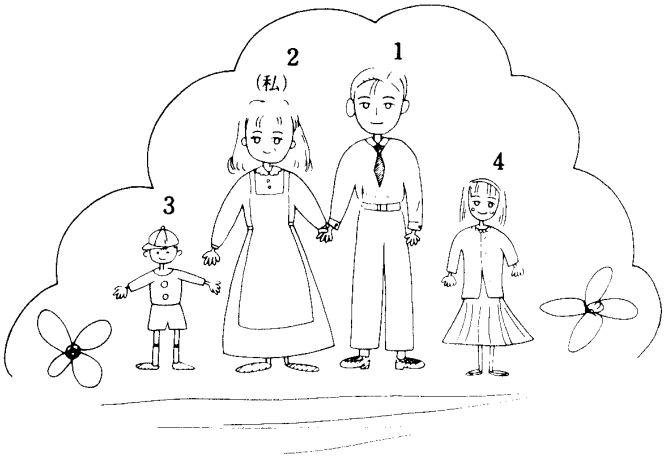

図7

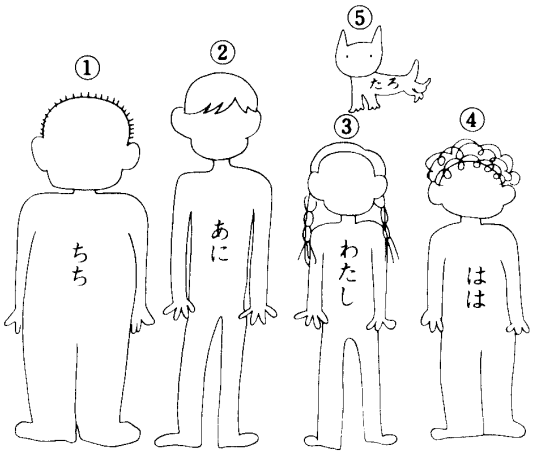

図8

図9

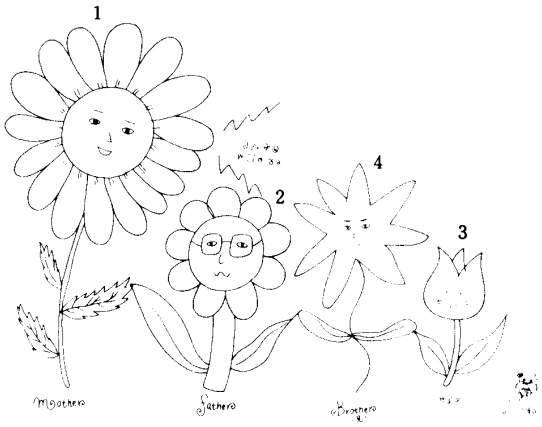

図10

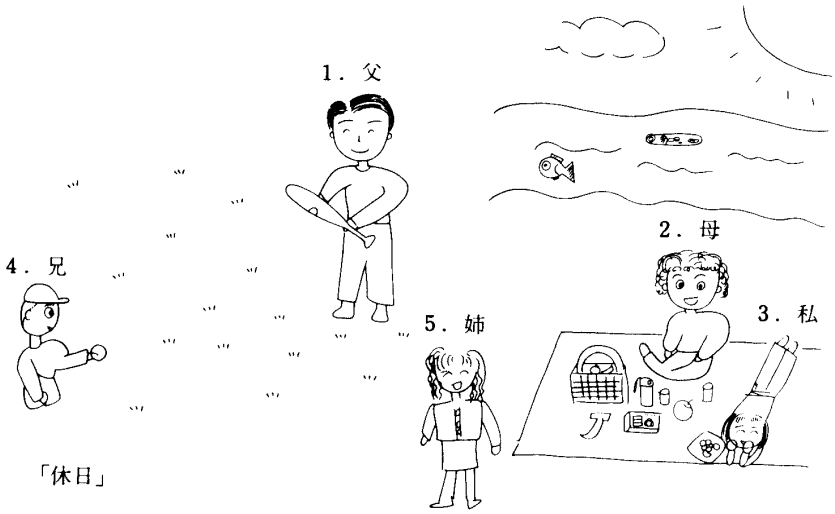

図11

NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

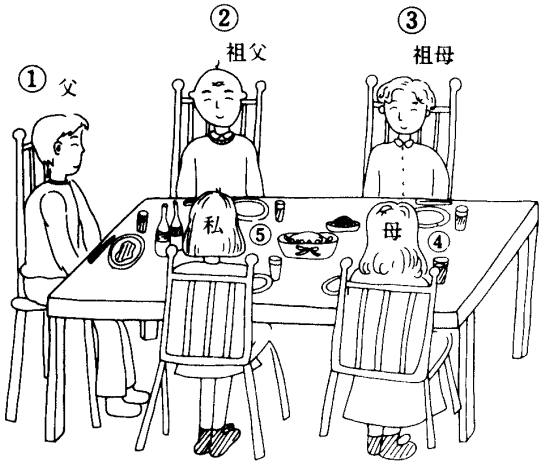

図12

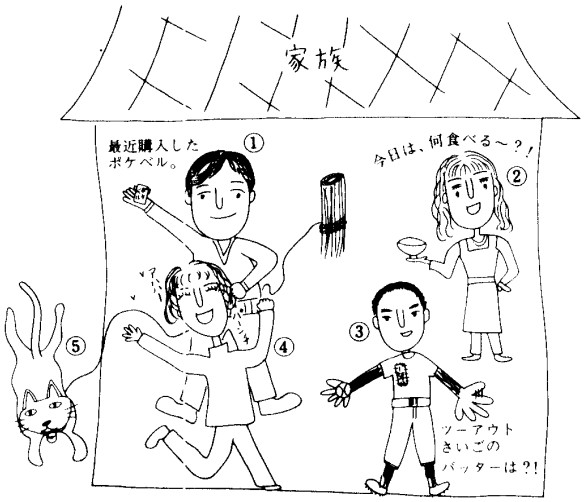

図13

全 体 的 考 察

本研究では，女子短期大学生に集団法による家族画テストを実施し，家族画の特徴に基づいて，静止的家族画と動的家族画の2つに大きく分類した。さらに，静止的家族画には8つの家族画の類型化が，動的家族画には3つの類型化が見いだされた。こうした家族画の類型について，入江（1994）は描画者の病理性が様々な描画形式や描画内容に投影されると述べている。高橋（1985）は静止的家族画の自分省略型・顔面空白型について，入江（1994）は静止的家族画の幼児退行型，未来型，漫画型や動的家族画について，家族関係の問題性を指摘している。本研究でも，そうした類型において家族関係の問題が感想文から指摘された。枠型，自分省略型，未来型，顔面空白型，幼児退行型，漫画型には，現在の家族関係になんらかの問題を有していることが見いだされた。しかし，本研究で見いだされ類型の中で，枠型については他の研究では見いだされていない。枠型の感想文には，家族関係のまとまりのなさが述べられているものが多かったが，この型に関しては今後の検討が必要である。また，動的家族画については，団らん型，円卓型，分散分離型の3種類に分類されているが，その中でも分散分離型は家族の疎通のなさが感想文に述べられていた。動的家族画であっても，その様式について充分な検討が必要であると思われる。

さらに，本研究では家族画の読みである描く順序と顔の向きについても検討した。こうした分析は，家族画の内容分析においてかなり重要である。家族画の特有な読みとして，大原（1988）は，位置・大きさ・分散・表情・空間象徴をあげている。家族画の類型化と家族画の読みを併せて，家族画を理解することが必要であろう。

また，女子短期大学生と大学生の描画の類型様式の違いが見いだされた。記念写真型では，女子短期大学生が63.3%，大学生が39.5%と女子短期大学生の割合が高い。しかし，顔面空白型では女子短期大学生が4.7%，大学生が9.2%と，大学生の割合が高い。記念写真型は，最も一般的な型であり，これは村瀬（1976）の述べている青年期平穏説と関連があると思われる。即ち，女子短期大学生の平穏理に過ごすものが多い生活スタイルを表していると考えられる。また，顔面空白型で大

NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

学生の方が女子短期大学生よりも多いのは，大学生の方が自我同一生における危機的な時期にある者が多いことによるのかもしれない。動的家族画は女子短期大学生が9.3％であるのに対して，大学生は50.6％と大学生の方がかなり高い。入江（1994）は，精神的に不安定な思春期には，動的家族画を描く割合が高いと述べている。このことからすると，女子短期大学生の方が大学生よりも精神的に安定しているということが考えられる。栗山・大追（1994）は，女子短期大学生と大学生に精神健康調査を実施したところ，女子短期大学生の方が大学生よりも精神健康の安定度の高いことが示された。これは，動的家族画の割合が女子短期大学生で低いことと関連があると思われる。

本研究では，被験者の感想文から家族画の型に示される意味について分析した。しかし，大原（1988）は，家族画の意味するところを探るためには，①絵そのもの，②描画過程の観察，③描画後のインタビューが必要であると述べている。本研究は，集団法を用いたために描画過程とインタビューがなされておらず，家族画の分析が充分できたとはいえない。今後は，家族画に見られた問題のある形式や内容について，インタビューを加えた分析を行う必要があろう。また，家族画における類型化が標準化されるためには，統計的な処理が必要でありこれも今後の課題である。

引　用　文　献

入江是清　1994　家族画と表現病理　臨床精神医学，**23**（**10**），1171-1181.

石川元　1992　人物画・家族画　精神科治療学，**7**，215-228.

栗山和広・大追典久　1994　質問紙法による女子短期大学生の精神健康調査　宮崎女子短期大学紀要，**20**，39-46.

村瀬孝雄　1976　青年期をめぐる実証的考察　笠原嘉　他（編）青年の精神病理１　弘文堂

大原健士朗　1988　家族関係の病理　ＮＨＫ市民大学

高橋雅春　1985　心理診断法としての描画テストー家族画テストを中心として　関西大学社会学部紀要，**16**（**1**），277-288.

高橋依子　1985　青年に試行した家族画テスト　嵯峨美術短期大学紀要，**11**，62-71.

高橋依子　1987　大学生の家族画　臨床描画研究 **2**，27-42.

〔1994年12月10日受理〕

NII-Electronic Library Service